

第2回運営指導委員会

平成27年度「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」

第2回運営指導委員会報告会記録

| | | | |
|------|--|---|--|
| 開催日時 | 平成27年12月21日(水) 13:30~17:00 | | |
| 開催場所 | 実習棟 A 棟 1F 機械コンピュータ室 | | |
| 参加人数 | 45人 | | |
| 内 容 | <p>(1)開会</p> <p>(2)学校長挨拶</p> <p>(3)出席者紹介</p> <p>(4)報告</p> <p> 1)本年度の取組と来年度に向けて</p> <p> 2)運営指導委員からの提言</p> <p> 3)その他</p> <p>(5)その他</p> <p>(6)閉会</p> | | |
| 質疑応答 | | 質問 | 回答 |
| | 学科共通 | <ul style="list-style-type: none"> ・直接採用については直接やりとりした方が確かなうえ、定着率が良い。「どうしても農業がやりたい」と強い決意あるほうがよい。 <p>(JA 名取岩沼理事長 佐藤)</p> | <p>→求人票が皆無に近い状況を打開しなければならない。いい人材とやる気ある生徒の育成に取り組みたい。</p> |
| | 農業科 | <p>生産物のブランド化を目指して海外輸出を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省力化に取り組んでいるのならば、作業時間のピークの分散を視野に取り組んではいかかがか。 <p>(宮城大学 富樫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前向きに取り組んでいる姿勢がとても良い。 <p>(JA 名取岩沼理事長 佐藤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出した米価が100円は安くないか。 | <p>→検討する。</p> <p>→継続していく。</p> <p>→海外ではリピーターの定着が必要である。出来るだけ大勢に食べてもらうのが狙い。</p> |

| | | |
|-----------------------|---|---|
| | <p>スマート農業（三農連携：宮城県農業・園芸総合研究所，宮城県農業大学校，本校）の導入による高品質な農産物生産・少労働力化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウスに限らず，絶対的にグローバル GAP の導入は今後必要である。生産過程を可視化するのも重要であり ICT をその点についても活用すべき。（宮城大学 富樫） ・NTT ドコモも支援してもらえようなので，三農連携を実践した方が良い。お金をかけずに農場のネットワークを充実することも出来る。（東北学院大学 岩本） ・ICT を活用するならば，今以上に地元の人とのつながりが大切になってくる。クラウドにアクセス出来，フェイスブックなどで交流することも大切にすべき。（アーバンスコップ代表 鈴木） | <ul style="list-style-type: none"> →いずれグローバル GAP を視野にしていけるよう継続研究を進めていく。 →今年度は連携までは出来なかった。その反省を生かし，次年度は共同研究出来るように進めたい。 →効果的な交流を図れるようにしたい。 |
| <p>園芸科</p> <p>生活科</p> | <p>農村や伝統野菜の保護を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事参加率でどれにも参加していない生徒は何人ぐらいいるのか。また，参加していないものにはどのようなアプローチをしているのか。経験で成長していくため，不参加生徒との間に格差が生じているのではないか。（宮城大学 中村） ・土日の活動がメインだと評価はどうなるのか？授業の中のどこで評価しているか明確にした方が良い。（東北学院大学 岩本） ・参加率はとても高いと思う。維持する苦労は大変だと思うが，継続して進めてもらいたい。（宮城大学 富樫） ・就職はどこに？ | <ul style="list-style-type: none"> →学年によって参加率には差はあるが，参加率は平均して65%である。経験の差は生じるが，その後の授業の中で当日の活動の様子を写真等で情報共有を図っている。 →授業の延長で活動している。評価の基本はあくまでも授業である。 →そのとおり進める。 →生活科の特色を生かして，介 |

| | | |
|-----------------------|---|--|
| | (アーバンスコップ代表鈴木) | 護, 調理・加工など。 |
| 食 品 化 学 科 | 6次産業化に対応し, 食や農産物に対して正しい知識をもった人材の育成。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コストについて50円と100円の違いは。(農業大学校 真木) ・アンケートの結果を分析する必要がある。(宮城大学 中村) ・あんで一番高価なのは(宮城大学 富樫) ・人件費は入っているか。(JA 名取岩沼理事長 佐藤) | <ul style="list-style-type: none"> →アンケート結果から販売価格が高いと出たため。釣り銭等の問題もありこのようにした。 →分析します。 →ずんだ。 →含まれていない。 |
| 農 業 機 械 科 | 再生可能エネルギーを活用した次世代型園芸施設の開発。 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・発電量を可視化しているか。たとえば発電量の計算や生産されている発電量を表示パネルで見えるようにしてみてもいいのではないか。(宮城大学 中村) ・防災BOXは災害時だけでなく, 日常で使用出来るとなお活用の幅が広がると思う。(宮城大学 富樫) ・出口の確保とは (農業大学校 真木) | <ul style="list-style-type: none"> →予算がかかるが, 検討したい。 →検討したい。 →農業関連企業の就職が多いため, その中でも農業法人への希望者がいれば進めて行く。 |

②運営委員からの提言

| 委員 | 提言内容 |
|----|--|
| 富樫 | よく頑張っているのは理解出来た。農業関係に進みたいと思わせる取組なので, 継続してほしい。 |
| 中村 | 生産から販売まで活動範囲が広い。特に販売で得た情報を生産にフィードバックされることが必要。ICT データをしっかりと活用されるために分析すると面白いことが出来そう。発展的に実践してほしい。 |
| 岩本 | 生徒の発表が良かった。今後どうやってまとめるか大切になってくる。 |
| 真木 | 一生懸命取り組んでいると思うが, 人事異動があっても, しっかりと引き継がれることが大切。 |
| 庄子 | PDCA サイクルを意識してまとめに取り組む必要がある。今後, 農地 |

| | |
|----|---|
| | 集積バンクの活用に向けて、農林水産省より調査が入る。 |
| 鈴木 | 素晴らしい活動だけれども、農業をやっている人との接点も大切にしたい。あなりたいなど今後も見せる機会も必要。学科同士の接点も必要「人」がキーワード。 |